

博物館だより

1990.4
第2号

大津市歴史博物館



〈歴史博物館全景〉

歴史博物館が完工

(仮称) 大津市歴史博物館および大津市立市民文化会館新築工事が、平成二年三月二十日に完工しました。総工費は二十三億五千四百五十万円。昭和六十三年十月三十一日に着工して以来、一年五ヵ月を経て完工をみたわけです。

三月二十九日午前十時から、新築なった歴史博物館で関係者列席のもと、完工式が挙行されました。市民文化会館は五月に開館されますが、歴史博物館は四月以降、市道改良工事、進入路整備・植栽工事、階段工事や常設展示工事を行い、収蔵庫・展示室の保存環境の安定を待って、十月末に開館の予定です。開館時には、開館記念特別展を企画しており、現在その準備を進めています。ご期待ください。

いっぽう、三月二日から始まった三月定例会市議会において、博物館の設置および運営の大綱を定めた「大津市歴史博物館条例」の制定が議決されました。これによって、四月一日から正式に「大津市歴史博物館」としてスタートすることになったわけです。

条例では、常設展示および特別展示についてのみ、観覧料が定められました。エントランスホールおよび資料閲覧室などの使用・入室は無料で、大型映像や歴史クイズ機、ビデオコーナーなどを自由に楽しんでいただける予定です。これらの内容については、今後、順次お知らせしていきます。

なお、四月一日から、大津市歴史博物館の住所は大津市御陵町二番二号に、また電話は〇七七五(二二)二一〇〇となりましたので、よろしくお願ひします。

常設展示の概要 (2)

大津市歴史博物館の常設展示は、前回説明しましたように、「テーマ展示」と「歴史年表展示」からなっていますが、今回は、そのテーマ展示について、各コーナーの内容を、少し詳しく紹介していきます。

A 諸浦の親郷・堅田

昔、琵琶湖では、船が各地の物産の輸送の主力でした。その船を支配していたのが、堅田の人々です。堅田の人々は、船の修理の技術ももっており、また、漁業もさかんに行われ、琵琶湖のほとんどをその漁場としていたのです。

このコーナーでは、それら湖の水運や漁業にまつわるさまざまな資料を展示し、漁具の展示や漁法の解説イラストなどで、その特徴を紹介します。

また、室町時代末頃の堅田の町並みや人々の生活風俗を復元模型や人形によって紹介します。

B 比叡とその山麓

比叡山には、最澄が開いた、有名な延暦寺があります。その山麓には、日吉大社もあり、坂本はその門前町として古くからにぎわっていました。

このコーナーでは、宗教文化を一つの柱にたて、神仏を描いた絵画を展示するとともに、その比叡山と対立した織田信長や明智光秀が活躍していた頃の、上下坂本のような、坂本城遺跡の出土品や、地元から提供されたさまざまな資料によって紹介します。

また、江戸時代の里坊や作り道の町並みなどを、日吉大社や延暦寺へ参拝する人々の風俗も含めて、復元

模型をつくり、皆さんに御覧いただきます。

C 大津百町

現在の中央・長等・逢坂・藤尾の各地区は、江戸時代、大津町と呼ばれるたいへんにぎやかな町でした。琵琶湖水運の港として、東海道の宿場として、経済的にも繁栄していました。

展示では、にぎやかな大津町のような、琵琶湖の船、町人の生活のありさま、大津絵をはじめとする土産物などを、写真パネルやイラストもとりにいれて紹介します。

また、宿場の中心であった札の辻付近の町家やにぎわいのようすを、模型と人形によって紹介します。

D 膳所六万石

膳所一带は、本多氏六万石の城下町として栄えていました。今でも膳所の町なかを歩くと、そここに城下町らしい町の姿が残っていますし、城の遺構も見ることができます。

このコーナーでは、膳所城や城下町を描いた絵画や絵馬、膳所藩が支配していた南部地域一帯の人々の生活ぶりをあらわす資料やイラストなどを紹介するとともに、膳所焼や、俳聖として知られる松尾芭蕉の紹介も、このコーナーでまとめて行います。

また、江戸時代末頃の膳所城と城下町のありさまを模型によって復元します。

E 三井・石山と近江八景

母なる琵琶湖と、緑ゆたかな山々にいだかれた大津の地には、すばらしい景色が随所に見られ、それらは「近江八景」という言葉に代表されて、浮世絵や陶磁器などの図柄として広く紹介されてきました。

このコーナーでは、「近江八景」を描いたさまざまな



大津町の札の辻のにぎわい (『近江名所図会』より)

資料を展示するとともに、その題材ともなった三井寺や石山寺の歴史も、あわせて紹介します。

F 大津京と近江国府

大津に今から一三〇〇年前、都がおかれ、日本の中心であったことは、あまりにも有名です。また奈良時代には、近江国の政治を担当する役所(近江国府)がおかれていたこともわかっています。

その大津京や近江国府の跡から出土した瓦や生活用具などの考古資料を中心に、市内の二大遺跡の全体像を解明するとともに、当時の大津京、また近江国府や瀬田橋付近の景観を復元したイラストを展示し、皆さんを古代の世界に招待します。

収蔵品紹介

大津絵・十三仏図

江戸時代中期

縦五五・〇センチ 横二二・〇センチ（本紙）

大津絵は、江戸時代に、東海道沿いの追分・大谷の町で土産として売られた絵で、大津の名産品でした。

大津絵の題材は、初期の仏画から風俗画、風刺画とさまざまですが、本作品は、その仏画の一種です。

十三仏信仰は室町時代に始まるといわれています。死後の十三回の供養の仏事をつかさどる十三の仏に対する信仰で、「十三仏図」はそれを一幅の絵に表わしたものです。

すなわち、下段右端の初七日の不動明王から、コの字型に上へ進み、五七日の地獄の責め苦から死者を救うという地藏菩薩（二段目中央）等を経て、最上段の三十三回忌の虚空蔵菩薩にいたる十三仏が描かれているのです。



大津絵・十三仏図

一方、右隻の宇治川図は、画面中央に平等院と宇治橋・塔の島を配し、それを取り囲むように左上から右下にかけて大きく宇治川の流れを描いたもので、

人々は、仏事にこの「十三仏図」を掛け、死者の追善、あるいは自らの死後の救済を祈ったのでした。

ところで、図の仏の頭部をよく見ると、坊主頭の僧形、螺髪（縮れた巻き毛）の如來形、宝冠をつけた菩薩形の三種類で、顔もそっくり似ていることがわかります。つまり、この仏たちは、三種類の版木でスタンブされたもので、大津絵が街道の土産として量産されたものであることをよく示しています。

なお、表装も描き表装といって、一見表装したように筆描きした素朴なものです。

近江八景・宇治川図屏風

江戸時代中期 六曲一双 紙本着色

各 縦六七・〇センチ 横二〇三・〇センチ

左隻に琵琶湖の南湖と瀬田川を中心とした近江八景図、右隻にその下流の宇治川図を配した、めずらしい図柄の小屏風です。作者は不明ですが、江戸中期、一八世紀頃の作品と考えられます。

左隻の近江八景図は、画面中央に琵琶湖と膳所城を大きく描き、上方には、三井寺（園城寺）、唐崎の松、

堅田の浮御堂、比良の山並み、

下方には、石山寺、粟津の松原、瀬田の唐橋、矢橋の港を配しており、近江八景のすべてが描き込まれています。

宇治の町並みや三室戸寺も描かれています。

近江八景は、一六世紀頃に、中国の瀟湘八景にならって選定された近江の名勝で、堅田・唐崎・三井・粟津・石山・瀬田と、大津の名所がそのうち六景をしめています。

その絵画化は一六世紀後半から始まりますが、画面に八景すべてを描き込んだ作品が出てくるのは、一七世紀後半以降なので、長命寺（近江八幡市）の「近江八景図絵馬」がその早い作例の一つといわれています。

この作品は、それより時代は下がりませんが、八景図は図巻仕立てのものが多く、屏風仕立てのものはありません。見つかっていませんので、数少ない貴重な作例といえます。



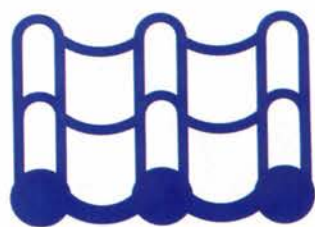
近江八景・宇治川図屏風（左隻部分）

マークとマスコットが決定

(仮称) 大津市歴史博物館のシンボルマークとマスコット・キャラクターの入選作品が決まりました。これは、本年秋に開館予定の歴史博物館のイメージにふさわしいデザインを広く全国から募集していたものです。北海道から九州まで、全国各地から応募いただき、応募総数は、シンボルマークが五六七点(三二四人)、マスコット・キャラクターが二四九点(五六八人)に及びました。

審査会(川越進審査員長)で慎重審査の結果、シンボルマークの入選作には、石川県珠洲市の濱奈巳夫さんの作品(写真下)、マスコット・キャラクターの入選作には、神奈川県横浜市の野澤昌代さんの作品(写真左)が、それぞれ選ばれました。

入選作品は、今後、歴史博物館の印刷物や映像などに活用していく予定です。



なお佳作は、シンボルマークが小島貞彦(高槻市)・横井時雄(習志野市)・糀谷芳昭(堺市)さん、マスコット・キャラクターが池内信(大津市)・鈴木麻司(大阪市)・井上たかお(長岡京市)さんの作品でした。

博物館建設日記抄

平成元年12月
平成2年3月

- 12月4日 石山寺巡礼札調査
- 9日 市長ら三役、教育長、建設現場視察
- 11日 シンボルマーク、マスコット・キャラクター入選作新聞発表
- 18日 新旭町日吉二宮神社資料調査
- 20日 市議会教育厚生常任委員、建設現場視察
- 22日 顧問会議開催(京大会館)
- 25日 東光洋家(京都市)資料調査
- 1月7日 下阪本おこぼまつり取材
- 9日 東京国立文化財研究所訪問
- 14日 尾花川蛇まつり取材
- 15日 山中町お弓行事、坂本御田神社綱引き行事取材
- 16日 建設委員会企画部会開催
- 17日 西教寺薬師如来立像搬出、真野さんやれ祭り取材
- 20日 宮崎市教育委員会来室
- 22日 建設委員会全体会開催、建設現場視察

- 25日 市教育委員、建設現場視察
- 26日 東京国立文化財研究所石川陸郎主任研究官現場指導

2月5日 高松市教育委員会来室

- 7日 平安高校(京都市)資料調査
- 13日 収蔵品収集審査会開催

19日 神戸商船大学資料調査

24日 京都府立総合資料館資料調査

27日 顧問会議開催、クリーブランド美術館(アメリカ)へ出陳交渉(4日まで)

3月6日 東京大学史料編纂所資料調査

8日 東京国立文化財研究所石川陸郎主任研究官現場指導(9日まで)

13日 半澤重信文化庁主任調査官建設現場視察

19日 大津市歴史博物館条例・市議会議決

29日 (仮称)大津市歴史博物館および大津市立市民文化会館完工式挙行

30日 博物館建設室移転(31日まで)

「博物館だより」第2号をおとどけます。博物館の建物も完工し、続いて展示等内容の充実をはかるため、その準備に東奔西走の毎日です。次号からは、館の内容についての詳細もおとどけできると思います。

博物館だより 第2号

発行日 平成二年四月一日

編集 大津市歴史博物館

発行所 大津市御陵町二二二

大津市歴史博物館
電話(〇七五)二二二〇〇代